

デザイン再開発に関する研究調査及び技術指導

田原健次, 宮内孝昭

かつて各地で重宝されたと思われる伝統的技術で既に消え去ったもの、顧みられなくなったもの、埋もれつつあるもの半休眠状態のもの等を掘り起こし見直してみる中で正確な分析を試み、且つ、これによる優秀技術のピックアップを行い今後のローカル性豊かなオリジナル製品の開発に利用し、併せて地域技術の記録保存を行なおうとしているものである。

〈当面の事業〉

1. 地域特性を生かした伝統的技術を生かし地場産業の活性化を図る。

(1) 利用材質：県産材の木材、金属、陶、織物、植物等

(2) 利用技術：指物、金工、漆、編組、ロクロ等

(3) 試作対象：クラフト（日用雑貨、高級クラフト）

パッケージ（グラフィックデザイン……ロゴ、ラベル、彩色）

2. デザインのカードの編集—公開用設計図面集（クラフト～軽工業製品）

写真製版技術を応用した木竹製品等の加飾技術に関する研究

恵原 要, 中村 俊一

鹿児島県が全国一の生産量を誇るモウソウ竹の工芸面への利用拡大や、仏壇、漆器、錫器等の加飾技法の改善を図るため、スクリーンプロセス等の写真製版技術を応用し、これら製品の付加価値を高めるための加飾方法を検討した。

1. パソコンCADによる加飾用図柄の作成において、作図時間の短縮、正確度、図柄の保管および変更、展開等、CADの有効性を検討するとともに、伝統文様や、地域性を表現した文様等の資料を収集し、これについてパターン化をおこない、CADの作図機能を用いて図柄の開発を行った。

2. 塗料等による加飾が困難な竹表皮への加飾方法として、スクリーン印刷とサンドブラストを併用した方法を検討し、マスキング材や適正な研削条件等を見いだした。

3. ひび割れや、カラークリヤーの溜り等の塗膜欠陥を図柄部分にだけ選択的に再現させ、独自の加飾を行う方法を検討した。また、UV塗料、UVインキの高硬度性、速乾性の特徴を生かした砥出し及び多色刷りの方法についても検討し、適正な条件を見いだした。